

＜特集3＞発達支援センターとはぐくむ

発達支援センターとして子どもや保護者との関わりで大切にしていること

上ノ国町子ども発達支援センター副センター長 木本優香

発達に関する心配や悩みを抱える中で、子どもと保護者が安心して過ごせる場として、遊びを通じた関わりを上ノ国町子ども発達支援センターの立場から、木本さんにお話を伺いました。

1 上ノ国子ども発達支援センターについて

——現在の利用状況（利用児童数）について教えてください。

（木本さん） 28人が在籍し、週に1回の利用をされる方もいれば、週に2回利用されている方もいます。

——上ノ国発達支援センターの特色を教えてください。

（木本さん） 私たちは、「遊びの中でさまざまな経験を重ねていくこと」を大切にしています。お子さんそれぞれに、少し苦手を感じることや、これから伸ばしていきたい力がありますが、苦手なことだけに目を向けるのではなく、遊びの中に、言葉のやりとりや身体の動き、順番を待つ経験などを取り入れ、子どもに応じた関わりを大切にしています。子どもたちが夢中になって遊んでいるうちに、「できたね」「こんな経験もしていたね」と世界が広がる、そのような時間を積み重ねていけたらと願っています。

2 保護者からの相談について

——保護者から寄せられる悩みや不安には、どのようなものがありますか。

（木本さん） 「かんしゃくが強くて心配」「一人で学校に通えるでしょうか」「平仮名に興味がなくて大丈夫か」など、就学に向けた不安の声が寄せられます。また、「45分間椅子に座ってられるか」「字が書けるか」「気持ちの切り替えができるか」など、日々の生活や集団生活を見据えたご心配もあります。就学という節目に、不安を感じるのはとても自然なことだと思います。

——木本さんが、保護者の気持ちに寄り添う上で心掛けていることはありますか。

（木本さん） お話のあとに「気持ちがすっきりしました」「少し楽になりました」「気分転換になりました」と感じていただけたらという思いで向き合っています。特別なことをするのではなく、保護者の思いをそのまま受け止め、ゆっくりとお話を伺うことを大切にしています。子どものことでも仕事や家族のことでも構いません。「そういえば、ここに話せる人がいたな」と思い出してもらえる存在でありたいですし、気軽に声を掛けてもらえる場所でありたいと願っています。そんな気持ちで、日々保護者と向き合っています。

3 子どもと関わるときに大切にしていること

—お子さんと関わるときに、大切にしていることはありますか。

(木本さん) まず大切にしているのは、子どもに緊張感を与えないことです。少し離れたところから「どんなことが好きで、どんなことに困っているのかな」と子どもの気持ちを探ります。また、関わるときは子どもにとって理解しやすい環境を整え、分かりやすい伝え方を心掛けています。療育を通して「楽しかった」「自分のことを分かってもらえた」と感じるなど、満足感や安心感を味わえる時間を大切にしながら、日々子どもたちと向き合っています。

—お子さんと関わるときに、環境づくりなどで具体的に工夫されていることはありますか。

(木本さん) 環境づくりは、特別なことというよりも、子どもの動きを丁寧に見ることから始まります。例えば、靴をしまう場面で迷う様子があれば、目印を付けるなど視覚的な工夫を取り入れます。「どうしたら分かりやすいかな」と考え、環境を整えることを大切にしています。

4 関係機関との連携について



—保育園との連携で、大切にしていることや工夫されていることを教えてください。

(木本さん) 保育園を訪問する機会は多くあります。個別的な支援でうまくいっている方法も、集団生活の中ではそのまま当てはまらないことがあります。そのため、園の環境や先生方の思いを大切にしながら、取り入れやすい方法を一緒に考えています。「どうすればできそうか」を対話しながら探ることを大切にしています。訪問時は保健師とも情報を共有し、必要に応じて関係機関につなぐなど、継続した支援を意識しています。

—小学校との連携についても教えてください。

(木本さん) 就学に向けては、「一度小学校を見学してほしい」と保護者の方にお伝えしています。学校ごとに異なる雰囲気や特色があり、実際に足を運ぶことで「我が子がここで過ごす姿」を思い描きやすくなります。また、小学校とのやり取りは保健師と情報を共有しながら進め、ライフステージが変わっても切れ目のない支援につながるよう体制を整えています。

5 さいごに

—さいごに、保護者の皆さまにメッセージをお願いします。

(木本さん) 発達支援センターは、見えにくい部分もあり、インターネットでは具体的な雰囲気が伝わりにくいこともあります。それでも、どの地域にも子どもやご家族のために力を尽くしている人たちがいます。「少し話を聞いてみたい」と動くことが、安心につながることもあります。それぞれの場所に、子どもとご家族を支えようとする人がいることを、心の片隅においていただけたらうれしいです。

—この度は、子どもや保護者との関わりで大切にされていることについて、お話をお伺いさせていただきました。ありがとうございます。

(木本さん) ありがとうございます。